



先制攻撃による「戦争」と「戦争準備」が私たちの命と暮らしをおびやかしています。

日本国憲法を守りどう活かすか、平和的生存権が問われています。

西アジアの「戦争」と東アジアの「戦争準備」に対して、市民の対話と友好、連帯をめざす活動も進んでいます。講演と報告から今後の展望をつかみ、学校教育や市民運動について、一緒に考えましょう。



5/23 西谷さん 堺市民懇で

14:00～15:00 講演 西谷 文和 さん

(フリージャーナリスト 「路上のラジオ」 主宰)

「なぜ中東で戦争が終わらないのか」

「イラク 戦場からの告発」など多くの著書や、現地からの映像で人々の様子を伝え続けています。

イスラエルは、イランやヒズボラをなぜ攻撃するのか。イスラエルとガザ、イスラエル内での反ネタニヤフの運動、当地の人々の声など、現在の状況についてもお聞きします。

15:00～15:30 報告 原 幸夫さん (大阪歴教協副委員長 元府立高校教員)

「日中韓の中高生 越境する学びあい、語りあい」

過去、現在から未来の東アジアをひらく」

東アジア青少年キャンプは、国境を越えて他者と出会う場。2002年から日中韓3国の中高生によって続けられてきました。東アジアの歴史や文化を学びあい、語りあって新しい発見や気づきを得ることができます。そして自国を冷静に見つめる目を持ち、内省を促します。

夏のキャンプ地は日中韓を巡り、これまでソウル、仁川などで開催してきました。「知らなかったこと、誤解していたことを認識した。」「対話によって分かり合える。」

こうした国際交流の貴重な体験をとおして、3国の若者たちは何を学ぶことができたのでしょうか。



三国青少年キャンプ